

## 人権教育に関する特色ある実践事例

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 基準の観点 | 学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例 |
|-------|----------------------------------------------|

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

秋田県由利本荘市

#### ○学校名

秋田県立由利工業高等学校

#### ○学校のURL

<http://www.yuritech-h.akita-pref.ed.jp>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】全学年各4学級 【合計】12学級  
(機械科、電気科、環境システム科、建築科の4学科)

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】375人(平成27年11月1日現在)  
(内訳:1年生124人、2年生131人、3年生120人)

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

自律精神を基盤として人格の形成を目指し、社会に貢献しかつ工業界の発展に寄与する工業技術者の育成を期する。

#### ○人権教育に係る取組一ロメモ

「由エスタンダード生活版」を掲げたことで、学校自体が変貌を遂げた。また、「近隣保育園との交流」「ME S Aプロジェクト」も、人権教育に大きく関わる本校の特徴である。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

平成24年度より「地域に愛される由工を目指して」をモットーに

- ①「由エスタンダード生活版」による基本的生活習慣の確立
- ② 生徒会が主体となった近隣保育園との交流
- ③ ME S Aプロジェクトによる各科のつながり

を三つの柱として、生徒の主体性、自律心を育成することに力を注いできた。

これらは共感的人間関係、自己存在感、自己決定の生徒指導の三つの機能を生かした人権教育の推進につながっており、人間的成長を含め様々な側面で成果を上げている。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### ・取組のねらい、目的

生活習慣の乱れは、学力低下・問題行動へとつながる。過去にも基本的生活習慣の確立を目指した呼びかけや指導は行われてきたが、その場限りであったり、ただ漠然と行われたものであったりと継続して取り組めず、成果が表れなかった。そこで、まずは全校生徒が簡単に継続してできることとして「由工スタンダード生活版」を掲げ、基本的生活習慣の確立を徹底させることを試みた。

また、近隣の保育園児との交流から他人へ配慮できる心の育成や、本校独自の取組であるME S Aプロジェクトを通して、自己理解と他者理解、協力することの意義について体験的に学ぶ機会を設けた。

#### ・取組を始めたきっかけ

平成24年度に創立50周年を迎えたが、それまでは問題行動が多く、地域住民の方から学校へ苦情の電話が殺到することもあった。50周年を迎えたことを機に、新たな半世紀への一步を踏み出すため、生徒指導の強化によって基本的生活習慣を確立しようと考えた。また、近隣保育園との交流を通しての人間育成、さらには四つの学科が協力し合い物事を成し遂げることでの自己存在感の確立を通して、学校のイメージアップを図り、その結果「地域に愛される由工」にしたいと考えた。

#### ・取組の内容

##### (1) 「由工スタンダード生活版」の策定

由工スタンダード生活版は、内容が多すぎても消化できないと考え「挨拶励行時間の有効活用 整理整頓」の三つとした。社会で通用する生活習慣であり、社会人としてとても大事なことであるが継続することは難しい。しかしながら本校の教育目標に照らし合わせ、大事なことでもあると考えた。この三つが由工生のスタンダードであることを全校集会で説明し、大きく横断幕状に印刷したものを各教室の後方に掲示し、学校全体で頑張ろうという意識付けを行った。はじめ、この横断幕は生徒指導部で貼り付けたが、わざとはがれやすいようにした。クラスごとにはがれたら貼り直すという意識向上を求め、もしはがれたら、気付いた誰かが貼り直すことを促し、他者の力を頼って事を成そうとするのではなく、クラスの一人一人が頑張ることだという意識付けも行った。

##### ① 挨拶励行

挨拶のモットーは「立ち止まって、きちんと元気よく」である。頭を下げる角度は生徒たちとも話し合い、20度に決定した。はじめに部活動主将や部長を集めたミーティングを行い、各部活動単位できちんと挨拶できるよう促した。毎朝職員が校門で遅刻指導・整容指導の声かけを行うとともに、挨拶を交わしている。また、風紀委員会が毎月一週間、校門で挨拶活動を行っている。

##### ② 時間の有効活用

朝、時間に余裕を持って登校することで、時間的・精神的に余裕が生まれ、問題行動の減少につながり、更にその時間を朝学習に使い、学力向上につなげ

たいと考えた。指導は校門・生徒昇降口での遅刻指導を主とし、授業のベル着に関しては教務部とも連携し実践している。

### ③ 整理整頓

工業高校生にとっては整理整頓を行うことは当たり前のスキルである。特に教室内のロッカーの教科書・ノート類はきちんとそろえること、体育着・作業服はきちんとたたむこととした。風紀委員会の活動として、毎月一週間、各クラスの風紀委員が整理整頓について呼びかけたうえで、放課後に巡視・点検を行っている。

## (2) 「近隣保育園との交流」

12年前の校舎改築から交流がスタートした。保育園交流には、少子化の影響で異年齢との交流が少ない環境で育った生徒たちに交流の場を増やすこと、そして教科・学科の学習内容を深める、というねらいがある。運動会や学校祭、そして専門教科の授業から始まったこの交流も、ここ数年は回数も増え、また、その内容も変化してきた。生徒会主体のものだけでも運動会（障害物競走・交流タイム、6月）、七夕（7月）、学校祭（10月）、ハロウィーン（10月）、クリスマス（12月）、別れの会（2月）と、年間6回の交流を実施している。

これらを実施するに当たり、本校では工業高校の特性を生かした地域交流・地域貢献を意識している。建築科で実施している「木工作品の贈呈」はその一つで、家庭科の授業と建築科の授業を連携させて時間の確保に努めるとともに、単なる保育園訪問に終わらず、学びの機会となるように内容を設定している。生徒会主体の行事では、受け身の交流にならないように、生徒が主体的・積極的に交流できるように内容を改良し、実施してきた。例えば、「運動会」では障害物競走に加え、「交流タイム」を設け、そこでは「生徒と園児が同じダンスを踊ろう！」と目的を設定した。生徒はそれに向けて、事前に保育園を訪問して練習し、更にそれを学校に戻った後幾つかの部活動と練習し、参加者の輪を広げるように、生徒自身に活動をさせている。また「クリスマス交流」では、工業高校の専門性を生かして、手作りのプレゼントを考案・製作するなど、生徒の技術が発揮できる場面、そして思考の機会を設けるように工夫している。

## (3) ME S Aプロジェクト

ME S Aプロジェクトとは、学科連携によるものづくりプロジェクトのことである（ME S Aは各科の英語表記の頭文字に由来、M：機械科、E：電気科、S：環境システム科、A：建築科）。このプロジェクトの目標は、全校が一丸となって地域貢献することである。その上で、平成25年度より、本校が地域の一次避難所として果たすべき役割と機能を充実させることを目標に、各科の強みである専門性を生かし、互いに補うことを意識した活動を行ってきた。

具体的には、全科の生徒が所属する生徒会がまとめ役となり、避難時に必要不可欠である「水」に注目し、機械科では飲料水にも活用できるポンプ製作、電気科ではポンプへの電源供給、環境システム科では水の浄化と温水化についての研究、建築科では避難時の居住スペースとなる簡易間仕切りキットを製作した。各

科の課題研究等においてその目標に向かいものづくりに励み、今年度は、その3年目として地域合同避難訓練においてその成果を披露した。

これらの取組は、自己と他者を理解することへとつながり、その上で成し遂げられることを体験できる教育活動を目指して行った。そのため、ひいては、人権教育につながるものと考えられる。

#### **4. 実施する際に生じた課題及びその解決策**

##### **・取組を実施する際に生じた課題**

- ① 由エスタンダード生活版の整理整頓に関して、見本をどうするか。
- ② 近隣保育園との交流で、当初は、交流の場面が設定されていても、恥ずかしさや照れから、積極的に関かかわることのできない生徒をどうするか。
- ③ ME S Aプロジェクトに関しては、生徒会が中心となることで、一部の取組にならないようにするためにはどうしたらよいか。

##### **・課題に対する解決方法**

- ① 整理整頓に関しては、県外のある工業高校を訪問した際、とても整理整頓されていたことから、写真を撮らせていただき、それをプリントしたものを教室に掲示、見本として示した。
- ② 近隣保育園との交流に関しては、5年ほど前から生徒会の発案で、運動会の種目に交流タイムを設けた。障害物競走だけでは物足りないという生徒の声もあり、園児さんと一緒に簡単にできるものを考え、ゲームやダンスを取り入れた。そして、「みんなで参加したら楽しいし、恥ずかしくない！」という雰囲気をつくり、生徒の積極的な参加を促そうと、運動部にも協力してもらい、交流の前面に出てもらうようにした。こうした取組により、最近では部活動以外の参加生徒も増加してきており、とてもよい雰囲気にかわってきた。参加した生徒の表情からも、それを見てとれる。
- ③ ME S Aプロジェクトに関しては、全校が一丸となって地域貢献することが目標であったため、各科の実習・課題研究等で得意な分野に取り組む体制づくりを行った。さらには校内外問わず積極的にその取組について発表することで、全員が参加しているという雰囲気をつくった。

#### **5. 実践事例の実績、実施による効果**

##### **・取組の実績**

##### **(1) 由エスタンダード生活版に関して**

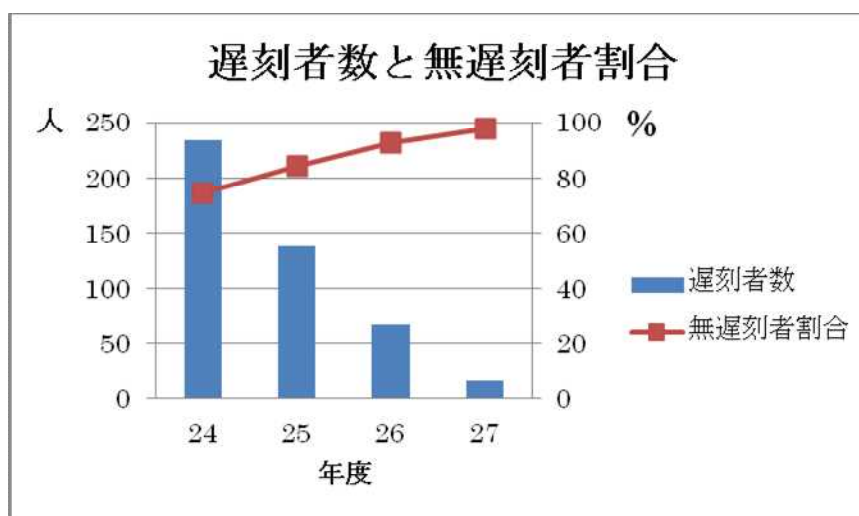
##### **① 挨拶に関して**

登下校時はもちろん、校内では大半の生徒がきちんと立ち止まり、挨拶している。その効果か学校全体の雰囲気が明るくなった。また、進路関係の来校者などからも挨拶が良いとお褒めの言葉を頂いている。さらには学校外でも挨拶する生徒が多くなり、地域住民の方からお褒めの電話を多数頂いている。

##### **② 遅刻に関して**

下のグラフは年間延べ遅刻者数と全校の無遅刻者割合を示したものである。遅

刻指導の取組を始めて4年になるが、グラフのとおり激減している。その結果、学校全体が落ち着いた雰囲気となってきた。



### ③ 整理整頓に関して

左写真は由工スタンダード策定前のものである。乱雑にノート・教科書がロッカー内に入れられているだけであった。策定後は、風紀委員会が呼びかけ・巡視・結果報告を行い、習慣化されてきたことから現在は、右写真のように整理整頓されている。



由工スタンダード策定前

由工スタンダード策定後

### ④ 自転車の管理及びマナーについて

整理整頓に加え、交通安全委員会が取り組んでいる「ツーロック運動」及び「自転車マナー指導」は、「自己管理」として、今後、由工スタンダードに加える予定である。

## (2) 近隣保育園との交流

数年前から、生徒の発案から生まれた交流も加わり、その内容も変化してきた。運動会での「交流タイム」もその一つで、園児さんと一緒にゲームをしたり、ここ数年はダンスを踊ったりしている。運動部の生徒を中心としたきっかけづくりを行ったことで、スムーズに交流は進み、傍観している生徒が多かった頃に比べると、運動会における保育園交流も活性化してきた。また、「自分たちから保育園を訪問して交流する場面をもっと増やしたい」という生徒の意見から始まったのがクリスマスイベントである。「由工サンタ」と称して、手作りのクリスマス

プレゼントを渡したり、吹奏楽部が演奏会を実施したりと、交流の内容に変更を加えながら実施している。年間を通したこのような取組により、異世代交流を苦手としていた生徒にも変化が見られるようになり、交流自体に積極性が見られるようになっていく。そして様々な場面で、必要に応じた対応（声かけ、目線を合わせるように姿勢を低くする、手をつなぐ、ゆっくりと話すなど）、相手に合わせた思いやりの感じられる行動をとることのできる生徒が増えてきた。交流後、生徒からは「素直で優しい気持ち、大切なことを思い出せた気がする」「何人かに同時にぎゅっとされて、うれしかった。心が温まった」などの声が聞かれ、生徒の心の発達につながる有効な活動の一つになってきている。

### （３）MESAプロジェクト

平成２５、２６年度には、主にプロジェクトのねらいや内容について発表する機会に恵まれた。「平成２５年由利地域活性化高校生選手権」においては最優秀賞を受賞し、平成２６年度の「第２４回秋田県産業教育フェア」の研究発表部門においては優秀賞を受賞し、平成２７年度には、地域合同避難訓練での実践結果を含めた発表を行うことによって、最優秀賞を受賞した。また、第２５回全国産業教育フェア三重大会においても展示発表を行い、教育新聞の特集記事として取り上げられた。

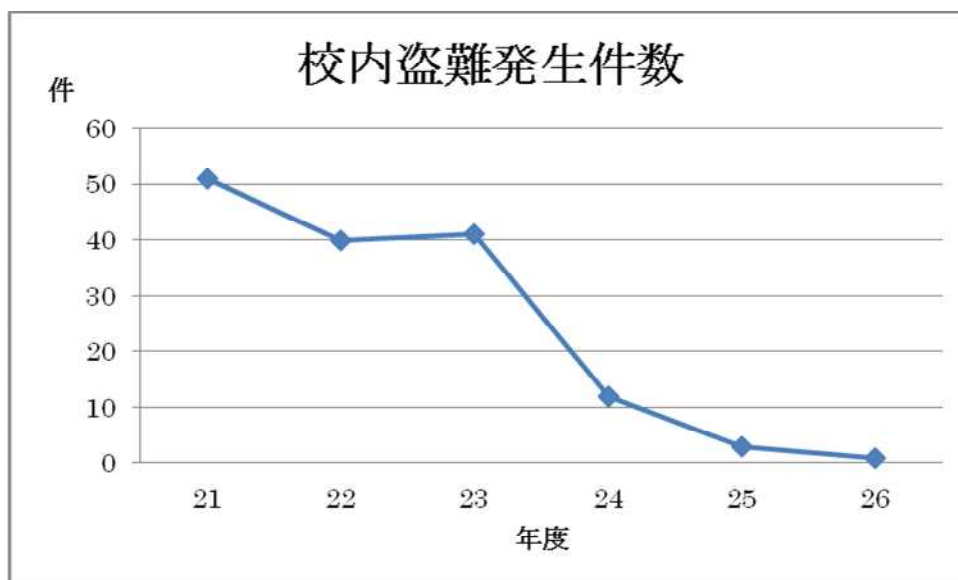
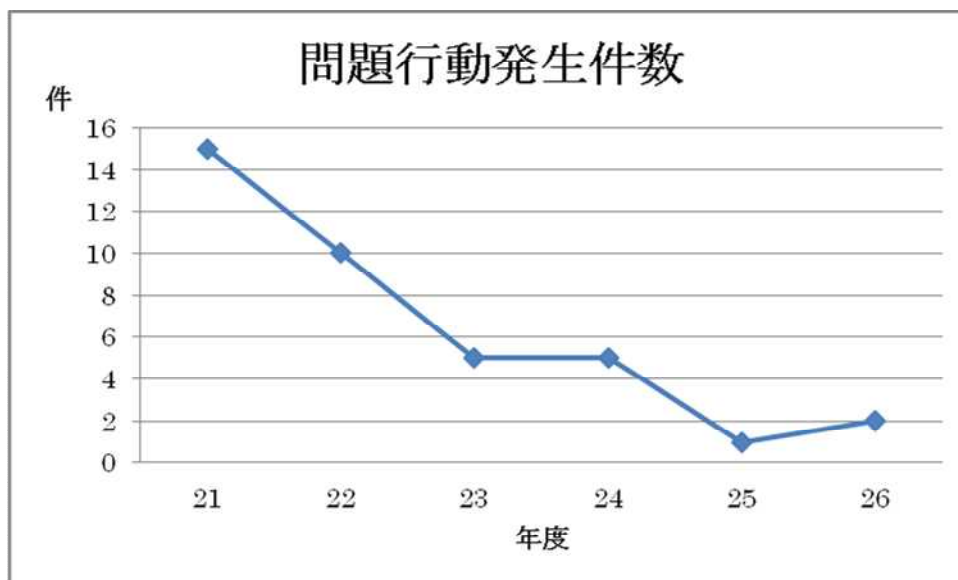
このプロジェクトを進めていく中で、生徒たちは避難時の心配事や課題を新聞記事などで調べ、避難者の気持ちになり、自分たちができることについて深く考えた。そして、実際にものづくりを行う中で、自分たちの専門性を磨き、どのような連携協力によってその成果が高められるかについて追究した。さら更にその成果を披露した地域合同避難訓練においては、地域の方々の反応や感想から、人の役に立つことの喜びや大切さについて学んだ。

その結果、自己を理解し、他者を理解し、その上で協力することの大切さについて体験的に学ぶことができたのではないかと考えられる。今後は、これら取組をさら更に進化発展させ、継続的に行うことによって、より多くの生徒がこの取組に関われるよう努めていきたい。

## 6. 実践事例についての評価

### ・取組についての評価、及びそう評価する理由

下の二つのグラフは本校の問題行動等の推移である。基本的な生活習慣が確立してきたことで、グラフが示すとおり、問題行動や校内の盗難は減ってきている。このことは由工スタンダード生活版による生徒の生活意識の向上として捉えることができる。さらには近隣保育園との交流を通し、自分自身のみならず他者への配慮ができるようになったことの成果である。それまでの「我関せず」といった意識から、みんなで学校を盛り上げよう、新しい由工を作り上げようという意識につながり、その意識がMESAプロジェクトの成功へとつながっている。



#### ・保護者や地域住民からの評価

地域住民から寄せられたお褒めの言葉を紹介したい。

「(学校近隣の) 松涛公園がいつも奇麗になっているので調べてみると、ある由工生が空き缶などを拾っていることがわかった。そこで町内運動会で『善行賞』を授与したい」

「いつも私の家の前を通って登校している3人の由工生について、非常に挨拶が立派できちんと指導がなされていると感じる。昨年も合宿中の野球部が本荘マリーナでランニングしている際も先頭から最後まで挨拶をしてくれた。今後も良い指導を続けてください。」

「祖母が(最寄り) 駅で落とし物をしたとき、由工生が1時間くらい探すのを手伝ってくれ、とても感謝している」

また、地域合同避難訓練でME S Aプロジェクトを見学した地域住民からの感想を紹介したい。

「どの科も問題意識を持って取り組まれており、素晴らしいと思いました。頼も

しく、うれしかったです。」

「電動ポンプ、いざという時、簡単に水があることは良いと思う。古紙燃料に感動した。間仕切りは本当に必要だと思った。」

「初めて参加しました。ただ身を守るための避難と考えていましたが、内容がすばらしく本当に来て良かったと思います。」

「機械科、電気科のポンプで水をためることは、良いアイデアだと思います。環境システム科の新聞紙を利用したの火力は、御飯を炊くことができる。建築科のシステムのアイデアは大変良かったと思います。」

以前は、学校へかかってくる電話は苦情が多数を占めたが、最近は苦情がほとんどなく、このようなお褒めの電話が増えている。また、地域合同避難訓練でME S Aプロジェクトを見学した地域住民には、学校で取り組んでいる内容を紹介することができ、災害時の安心感や研究内容に対する感動を与えることができた。

これらのことから、生徒たちは「由工スタンダード生活版」で自己を顧みることができ、また、「近隣保育園との交流」、「ME S Aプロジェクト」を通して、他者と関わることの難しさや大切さを学ぶことができた。これらの実践は、人権について体験的に学ぶ機会として捉えることができ、目標であった「地域に愛される由工」に変貌しつつある。

#### ・現在、実施に当たって課題と感じていること

毎年、新入生が入ったり、職員の人事異動等があったりと、現在の状態を末永く継続できるかが課題である。教員、生徒と人が代わっても不変の由工になるような体制づくりが必要である。

### 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

#### 秋田県立由利工業高等学校

生活習慣の乱れにその場限りのスタンスで取り組むのではなく、ME S A MESAプロジェクトという体系的・系統的な取組へと発展させることによって、生活習慣のみならず学力問題や問題行動全般についても改善へとつないでいった。学校に限らず組織が大きな成果を上げるときには、明確でシンプルな目標の下にすべての構成員が心を一にすることが意味を持つ。本校の取組においてもそのことが遺憾なく示されている。例えば、「由工スタンダード生活版」では「挨拶励行 時間の有効活用 整理整頓」という三つだけを掲げており、生徒の誰に聞いても、自分の学校が何を重視しているか答えられるように工夫がなされている。また、近隣の保育園との交流においては、生徒の積極性を引き出すことに成功し、その成果は、いずれについても数字で示せるほどはつきりと上がっている。この土台の上に、人権課題や人権条約などを学習して知的理解や行動力が育まれる。